

2 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者から建設リーダー(CL)が対象校7校合計で96名育成された。 ・建設リーダーと村長との協働体制が構築された。 ・行政関係者と保護者など住民との協働体制が構築された。 ・保護者の初等教育環境改善に対する意欲が向上した。 ・初等学校5校7教室、2校2小建物(教室利用)が建設された。 <p>初等学校9校で11教室を建設し、建設・補修や学校運営に取り組める建設リーダーを対象校9校合計で290名以上育成する。</p>
(2) 活動内容	<p>1.行政関係者との協働</p> <p>1-1.パロンベ県との協働体制</p> <p>1-1-1.協議と事業実施：想定の12回より多く、県知事と関係局長を個別に計26回訪問し、事業状況の変化に応じて協議を重ねた。</p> <p>1-1-2.事業の合同評価：建設作業開始時に3校(1年次含め計7校)、終了時に7校で実施し、行政官が、CL・保護者代表・校長・村長の事業参加や完成した建設物を評価し、行政関係者と学校関係者が事業終了後も継続的に協働することを確認した。</p> <p>1-1-3.県執行委員会(DEC)との連携：2023年6月27日、DEC会議に参加し、本事業を報告し、経験を共有した。</p> <p>1-2.伝統首長区(区)との協働：クランベ、ナゾンベ、ジェナラ、ムクンバの各伝統首長(TA)を計28回訪問した。クランベTAへは、追加SSB製作への取り組みが停滞している学校への状況改善について相談した。その後、状況が改善し活動が再開した。ナゾンベTAへは、SSB作成が停滞している学校への状況改善について相談し、建設物を教室から小建物に変更して事業終了までの完成を目指す方針で合意した。その後、同校は活動への住民参加が改善し、小建物を完成させた。ジェナラTAへは、SSB製作が深刻に停滞している学校2校について相談を重ねた。1校については、介入、説得を試みるも、具体的な状況改善がみられず、学校の判断で事業を途中終了した。他の1校については、建設物を教室から小建物に変更して事業終了までの完成を目指す方針で合意した。その後、同校は活動への住民参加が改善し、小建物を完成させた。ムクンバTAは、SSB製作が深刻に停滞している学校の事業途中終了について報告し、学校の決断を認めた。</p> <p>2.基本土壌安定化レンガ(SSB)作成活動</p> <p>2-1.教室建設の基本SSB作成覚書(覚書3)締結のための準備活動:1年次に完了済み。</p> <p>2-2.教室建設の基本SSB作成： 1年次に終了目標(SSB9,000個)未達成の4校のうち、2校は事業を途中終了し、2校はSSB作成を終了目標未達成で中断するも、事業期間内で建設可能な規模として、教室から小建物への変更することで建設活動に進んだ。最終的に9校中5校終了目標達成。</p> <p>3.教室建設活動</p> <p>3-1.教室棟(2教室)建設活動(申請2校：完了2校)</p> <p>3-1-1.手順書の作成：専門家A(工科大学教員・建築学士)の監修で作業手順書を作成した。</p> <p>3-1-2.教室棟基礎・床建設：1年次完了済み。</p> <p>3-1-3.第一教室壁・屋根建設：教室棟基礎・床建設が完了した2校とも、同建設完了。</p> <p>3-1-4.第二教室壁・屋根建設：教室棟基礎・床建設が完了した2校とも、教室棟が完成し、当会が技術報告書を取りまとめ、公共事業局長が基礎・床の品質を審査し、承認した。</p>

	<p>3-2.教室(1 教室)建設活動(申請 7 校：変更 3 校：完了 3 校)</p> <p>3-2-1.手順書の作成：専門家 A の監修で作業手順書を作成した。</p> <p>3-2-2.1 教室基礎・床建設：1 年次で完了済み。</p> <p>3-2-3.1 教室壁・屋根建設：1 教室基礎・床建設が完了した 3 校とも、教室が完成し、当会が技術報告書を取りまとめ、公共事業局長が基礎・床の品質を審査し、承認した。</p> <p>3-3.小建物(教室利用)建設活動(申請 0 校：変更 3 校：再変更 2 校：完了 2 校)</p> <p>3-3-1.手順書の作成：専門家 A の監修で作業手順書を作成した。</p> <p>3-3-2.小建物建設：SSB 作成終了目標未達成で中断した 2 校で、小建物(基礎・床・壁・屋根)建設の覚書(覚書 4C5C)を締結し、小建物完成。2 校とも、当会が技術報告書を取りまとめ、公共事業局長が基礎・床の品質を審査し、承認した。</p>
<p>(3) 達成された成果</p>	<p>1.行政関係者との協働</p> <p>【期待される成果 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CLと村長との協働体制が構築される。 ・ 行政関係者と保護者など住民との協働体制が構築される。 <p>【成果を測る指標 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行政関係者が、保護者やCLへの研修や建設活動が滞る状況の中で、助言と介入を行なうことで課題が解決する事例が発現する。 <p>【指標値】 行政関係者による課題解決事例数：9件以上</p> <p>【指標の達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目標9件に対して、建設を完了した全7校で、計14事例を確認： <ul style="list-style-type: none"> * TAが介入し村長を通して解決した事例：2件 * TAと教育官が介入し村長を通して解決した事例：1件 * 教育官と村長が介入して解決した事例：1件 * 教育官が介入して解決した事例：2件 * 村長が介入して解決した事例：8件 <p>このうち全7校での12件が、村長が、学校活動への村長自身ならびに村人の参加を促すことに成功した事例である。</p> <p>【期待される成果 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 村長が権威的な関与から実務的な関与となることで、住民や保護者の参加が改善することから、保護者でもある村長が、建設リーダー学研修や建設実務に参加するよう積極的に働きかける。 <p>【成果を測る指標 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共事業局長が承認するCLのうち村長を確認し、同村長への聞き取り調査を行なって、行政関係者と保護者の関係構築が深まったことを確認する指標とする。 <p>【指標値 2-1】</p> <p>CLとして承認される村長数：5校10名以上</p> <p>【指標の達成状況 2-1】 全7校のうち1校1名</p> <p>村長が権威的な関与から実務的な関与となることを確認する指標値として、CLとして承認される村長数は、不適切だった。実務的な関与は、CLと一緒に働くのではなく、別途、村長グループとして現地資材収集やSSB作成を担当する形での実務的関与が、全7校のうち4校で確認できた。</p> <p>【指標値 2-2】</p> <p>村長と保護者の関係構築が深まったと評価できる学校数：5校以上</p>

【指標の達成状況 2-2】全7校のうち7校

2.基本土壌安定化レンガ(SSB)作成活動/3.教室建設活動

【期待される成果 3】

・保護者の初等教育環境改善に対する意欲が向上する。

【成果を測る指標 3】

・CLが、当該校保護者の学校教育環境の改善への意欲の度合いを評価するための質問票調査を実施し、その向上度合いを確認する。実施時期は、1年次開始時(第一評価)と、1年次終了時(第二評価)、2年次終了時(第三評価)とする。第一評価では先行事業を、第二評価では1年次事業を、第三評価では2年次事業を踏まえて質問票に回答してもらう。質問票の内容は、本事業で保護者が、①必要な現地資材を学校に持ってくる、②SSB作成へ参加する、③建設活動へ参加する、④村で本事業について話し合う、⑤副次的利益の要求発言の減少などを5段階で点数化する。

【指標値 3】第一評価から第三評価へ点数が改善する学校数：6校以上

【指標の達成状況 3】全7校のうち2校

CLが、事業開始時と終了時を比較して、保護者の参加が向上したと評価した学校は2校にとどまった。評価点の増加の度合いは小さなものだった。一方、向上したと評価しなかった5校のうち、2校については評価点の減少の度合いが顕著だった。最も円滑に教室建設を完了した学校が、保護者の参加の評価点を最も減少させている。本事業が、意欲ある少数の保護者であるCLを見出し、協力するなかで、2年以上も意欲を持ち続けて地道に建設に取り組む人材を育成することには成功したが、一般保護者からCLへの協力を得ることには課題を残した現状を象徴的に表している。

【期待される成果 4】

・CLが、教育施設改善の知識と技術を身につける。

【成果を測る指標 4】

・研修後の建設施工管理に関する試験で優秀点(100点満点で70点以上)を獲得するCL数

【指標値 4(変更)】7校112名以上：1校平均16人以上

【指標の達成状況 4】7校40名：1校平均 5.71人

全7校で112名以上が優秀点を獲得する目標に届かない40名にとどまった。7校CL数が、開始時の230名から終了時は96名に減少していることが、主な要因である。なお、優秀点を獲得したCLの割合は、開始時の34.3%から終了時は41.7%に向上している。本事業は、2年以上にわたってCLに、活動量が多い建設作業に地道に取り組むことを求め、一部CLが途中で活動をやめることを想定しながらも、新たなCLの参加をえていく計画だったが、やめるCLのほうが多かった。事業展開の想定や、指標設定に課題があった。

【期待される成果 5】

・CLが、研修で身につけた建設の知識と技術を実践する。

【成果を測る指標 5-1】

・CLが、出納帳に現地資材・SSB・セメント以外の資材の管理も継続的に行なう学校数

【指標値 5-1】9校中5校以上

【指標の達成状況 5-1】7校中5校が資材の管理を継続していること

	<p>を確認。</p> <p>【成果を測る指標 5-2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業以外で CL が建設知識・技能で地域に貢献する件数 <p>【指標値 5-2】 5件以上</p> <p>【指標の達成状況 5-2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標5件に対して、以下の41件の事例を確認: <ul style="list-style-type: none"> * 政府資金による教室棟建設を受注し建設実施中：1件 * 学校の教室やトイレの修繕に建設技術を活用：20件 * 地域の公共活動に資材管理技術を活用：3件 * 地域の公共活動に建設技術を活用：6件 * 地域住民個人の依頼による住宅建設に貢献：11件 <p>【期待される成果 6】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者が、品質の高い教室を建設することで、子どもたちに安全で快適な学習環境を提供する。 <p>【成果を測る指標 6-1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政官が品質を確認した教室数 <p>【指標値 6-1(変更)】 5校7教室、2校2小建物(教室利用)</p> <p>【指標の達成状況 6-1】 5校7教室、2校2小建物(教室利用)</p> <p>【成果を測る指標 6-2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建設した教室で学習する子ども数 <p>【指標値 6-2(変更)】 504人以上(累積)</p> <p>【指標の達成状況 6-2】 1009人(2023年9月現在)</p>
<p>(4) 持続発展性</p>	<p>本事業では、パロンベ県の7 初等学校で 96 名の CL が、本事業に継続的に参加した。うち 64 名が先行事業から引続き参加した(32 名が新たに CL として承認された)。彼らは、継続して建設の基礎知識や施工管理について学び、倉庫建設(先行事業)を経験し、本事業でも SSB 作成や基礎・壁・屋根建設を継続的に経験した。また、7 校すべてで、地域の建設職人が CL としてボランティア参加した。彼らがこの2年間の事業実施をつうじて、CL と村長、保護者との協働関係を発展させたことによって、初等学校の教室建設が実現し、今後も地域の初等学校を中核として地域の子どもの初等教育を保障する大人たちのグループを形成していくことができる。すでに、政府資金による教室棟建設校に選ばれ、建設業者として CL1 名が応募したところ、公共事業局の審査を経て、同人が教室棟建設を受注し、同校の CL も雇用し、建設活動を進めている学校の事例が発現している。</p> <p>また、この CL は、建設技術だけでなく、マネジメント全般の知識・視点を、本事業の実施をとおして経験し身につけ、様々な面での学校運営へ貢献できる地域の人材となった。これにより、地域の子どもの教育と健康を保障する自律的で持続的な公共活動の担い手なることが期待できる。</p> <p>事業で使用した建設機材については、2 年次終了時の状態を確認して、当会と学校間で資産譲渡確認書を結んだ。機材の用途は、今後の教室建設や公共目的に限定し、引き続き出納帳に記録する。これらにより、建設した教室の維持管理、学校施設の小規模修繕などにも対応できる。すでに、CL が学校で小規模修繕を実施した事例が発現している。</p>